



## 入退院支援センターの運用を開始しました！

当院では、入院されるお子様やご家族を対象に以前より入院に向けた聞き取りや入院生活に関する説明などを外来看護師が実施してまいりました。

この度、家族支援・地域医療連携部の部門として入退院支援センターを開設し、多職種（医師・看護師・地域連携部員・管理栄養士・薬剤師・事務員など）が連携しながら、それぞれの専門性を活かした入退院支援の充実を図りたいと考えています。また、ご家族のみでなく入院に関するお子様の不安やご質問にも丁寧に対応させて頂き、お子様やご家族に安心して入院治療や検査を受けて頂けるよう努めて参ります。当面の間は心臓血管外科・脳神経外科・泌尿器科の3科から実施し、順次対象診療科を拡大したいと考えていますので、どうぞ宜しくお願いします。

5月27日にサッカー選手が立ち寄っていただきました



左から船田選手 (INAC 神戸)、権田選手 (清水エスパルス)、井手選手 (INAC 神戸)、竹内選手 (ファジアーノ岡山)



### Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
  2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
  3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
  4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
  5. 親とこどもが一体となった治療の推進
  6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
  7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
  8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



### 編集後記

7月号の編集を終えて。ふと、お隣の南公園をみると、木々の緑は鮮やかに輝き、日差しも強くなって、季節は初夏へと移っているのを感じました。この「げんきカエル」が皆様の手元に届く頃には夏休みも目の前です！こども達のワクワクした顔が思い浮かびます。今年はオリンピックもあります！ワクワク!! (A.S)

委員 長：貝藤裕史  
副委員 長：大津雅秀  
委員：深江登志子 島田貴子  
大西美樹 猪股高爾  
菊池真由美 林卓郎  
新井良子 藤田真理子  
上西美奈子 松下伊都子  
笹倉明子 中村直子  
森くるみ 三木貴久子  
永安正典 山川真央  
小林穂花

# げんきカエル No.85

兵庫県立こども病院  
ニュースレター



令和6年(2024) 7月1日

## 新任幹部職員のご案内



管理局長  
菅澤 真央

この4月に管理局長として着任しました菅澤です。全国で二番目となる小児専門病院として誕生した兵庫県立こども病院。半世紀以上にわたり、小児・周産期医療の発展に貢献してきました。そのこども病院の一員として働くことができ、誇りに感じています。微力ではありますが、病院のスタッフ、地域の医療機関の皆さんと力を合わせ、医療の向上に取り組む所存です。どうぞよろしくお願いいたします。



副院長  
田中 亮二郎

こども病院に勤務し22年目になります。今年度、医療連携・医療情報・医療安全担当の副院長を拝命しました。関連部署や関連委員会と密に連携し、安心・安全で良質な医療を提供できるように取り組んで参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



診療部長  
長谷川 大一郎

4月に診療部長を拝命しました長谷川です。こども病院には29の専門診療科がありますが、患者さんとご家族にとって安全と信頼の医療を提供するためには診療科間、あるいは多職種の連携と協力が不可欠です。こども病院を訪れるすべての患者さんとご家族に最善の医療を提供するため、チーム医療の推進に取り組んでまいります。



副院長  
杉多 良文

副院長（診療担当）を拝命しました杉多です。当院で診療をお受けになる皆様方に良質で安心・安全な医療を提供させていただくとともに、当院の発展のために尽力いたします。どうぞよろしくお願いいたします。



看護部長  
居神 真実

4月より看護部長に着任いたしました。新しい役割と初めての小児専門病院であり緊張の連続です。安心と満足が得られる看護の提供を目指し、皆様との対話を大切にしながら「笑児（しょうに）看護」に取り組めます。どうぞよろしくお願いいたします。



看護部参事  
田阪 恵

今年度は69名の新任看護職員を迎え、全看護職員で「笑児看護の倫を理める」よう取り組んでいます。こどもを主体とした関わりの重要性を理解し、こどもを取り巻く環境の変化に対応できる看護部の運営に尽力しますので、よろしくお願いいたします。





\*\*\*\*\*  
 **「障害児を産んで -今だから言えること-」** きーの母  
 \*\*\*\*\*

2021年私は第三子を出産しました。愛称は「きー」です。きーは妊娠中の異常もなく超安産でしたが、出産直後から呼吸状態が悪く、翌日こども病院へ救急搬送されました。NICUの先生からダウン症候群の指摘を受けた時は、目の前が真っ暗になりました。そして人工呼吸器や点滴等様々な管が付き、一気に物々しくなった我が子を目の当たりにし、心配になりながらも、冷酷な目で見ていた自分に気づき、違ふと必死で押し殺していました。ショックから立ち直っていない時期に先天性サイトメガロウイルス感染症も明らかになり、元気に産んでやらなくてごめんね、障害児を産んでしまっでごめんなさいと罪悪感に苛まれました。そして私の人生はきーの介護で終わるのかと陰性感情大噴出の暗黒期を経験しました。そこから何とか抜け出したい、同じ境遇の人と巡り合いたいと思い、SNSに超疎い私ですが、恐る恐るインスタグラムを始めました。私と同じ感情を抱いている投稿に癒され、子どもに障害があっても楽しそうな日常をあげている投稿に励まされました。

きーは先に挙げた先天性疾患だけでなく、多重に障害を抱えており、成長が非常にゆっくりです。首が座ったのは生後8ヶ月で現在3歳ですが、寝返りしかできません。1歳を迎えた頃には、発達を促さなければ、とにかく早く療育園に通わなければいけないと焦燥感に駆られて、手当たり次第問い合わせの電話をしていました。

まだ「何にもできないんです。」と療育園の面談で言ったところ、「ちゃんと嫌なことは手で払ったり、興味のある方を向いたりしていますよ。」「体がしんどい時期は食べる出す寝るができればそれで良いんです。」と理学療法士に言われ、「できる」視点できーを見ると、小さな変化に気づけるようになりました。躍起になっていた気持ちが緩み、肩の荷が降りたような気分になりました。それからは、他者や一般論と比べず、我が子それぞれの成長を見守ることができるようになりました。

私は県内で看護師として働いています。医療的ケア児支援法が成立し、今年の4月に認可保育園へ入園することができ、無事仕事に復帰することができました。

暗黒期はとにかく孤独で、私は世界一不幸な母親だと思いました。ダウンちゃんは可愛いらしいよとか障害児は選んで産まれてくるとか、当事者ではない方の言葉は気休めにもならず、誰も私のことを分かってくれないとどんどん深みにはまっていきました。そんな私を見捨てず、辛いね、一緒に大事に育てていこう、一人じゃないからねという言葉や態度で接して下さる方々に救われ、歩み出した時には頑張ってるねという言葉に元気をもらい、きーの障害との向き合い方を学びました。

1日4回の導尿や離乳食中期の形態のご飯を用意することは決して容易な事ではありません。平日はてんやわんやで、土日は子どもの習い事の送迎をしたりご飯を用意したりと息つく暇がありません。

しかし、きーを産む前よりも豊かな人生になっています。私は気持ちが辛くなった時に頭の中で決まって流れるのが武田鉄矢の贈る言葉です。「人は悲しみが深いほど、人にはやさしくできるものだから」。自分、何歳やねんですが、本当にそうだなあと感じます。毎日楽しそうに過ごしているきーは我が家にとってかけがえのない存在になっています。これからも家族5人で楽しく過ごしていきたいと思っています。



\*\*\*\*\*  
 **こどもの歯を守りましょう!** 小児歯科 曾根 由美子  
 \*\*\*\*\*

みなさん、'虫歯は治る'と思っていないでしょうか？

'虫歯を治す'と一般的に表現しますが、実は虫歯は皮膚の傷が治るように元通りに治ることはありません。虫歯治療の実際は、虫歯になった部分を削りその代わりに人工の材料で元の歯の形を作っているのです。現在のところ、天然の歯質に勝るものはなく、人工物とのつなぎ目からまた虫歯が出来たり、作った部分が欠けてしまったりすることもよくあります。ですので、一番良いことは'虫歯にならない'ことです。

ほとんどのお子さんの乳歯は健全な状態ではえてきます。その健全な乳歯をご家族で守っていくことが大切です。

乳幼児期は、生涯を通じて歯の健康を守るための適切な歯みがきの仕方や食習慣などを身につける大切な時期です。そのために、次のことを是非実践してみてください。

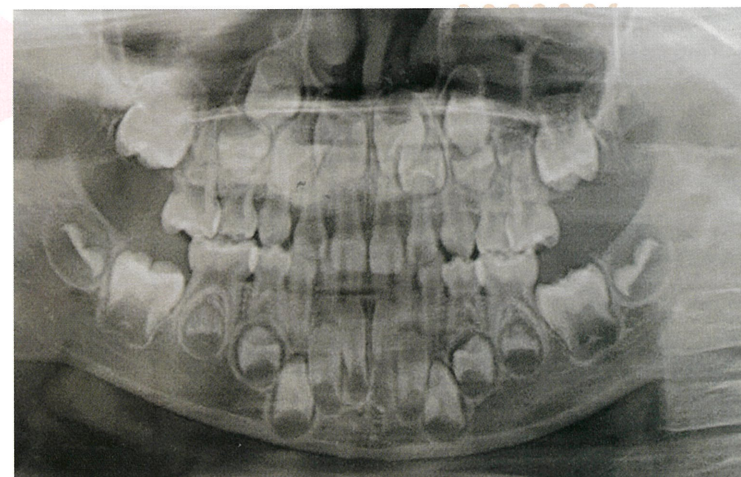
- ・生後6~8ヶ月ごろ、歯がはえ始めたら、**歯ブラシデビューをし、朝夕2回歯をみがきましょう**
- ・間食は時間をきめて食べましょう
- ・1歳をすぎたら、**かかりつけの小児歯科で定期歯科検診をうけましょう**

この3つの習慣で、健康な乳歯列期を過ごすことは、その後のお子さんの顎の成長発育、将来の永久歯の歯ならびに良い影響をもたらします。

でも実際には、乳歯は永久歯よりやわらかく酸に溶けやすいため、虫歯になりやすいです。日々気を付けていても、虫歯になってしまうことはよくあることです。定期歯科検診の際に、虫歯が小さなうちに見つければ、早めに修復をする、早めに虫歯の進行を止める、という対応により、永久歯に影響を及ぼすことのないよう見守ることができます。

乳歯は永久歯を適切な時期に正しい位置に誘導する大切な役割を担っています。乳歯の大きな虫歯や乳歯の外傷が、永久歯の形成障害・萌出障害を引き起こすこともありますので、そうなる前に見つけて対処することが大切です。

お子さんの大切な乳歯を、かかりつけ歯科医とともに守っていきましょう。



5歳児のレントゲン写真（顎の中でたくさんの永久歯が育っています）